夕刊
磐城新聞
四月十四日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵税拾五錢）
廣告料金（普通 金六拾錢 特別 金九拾錢）五號十二字詰一行（場所指定一行 金壹圓）
編輯印刷兼發行人 舶木徹
發行所 福島縣石城郡平町田町十六番地 磐城新聞 合資會社
社線交換電話（タイライワキ） 平局電話五十二番・大四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩も明日も南東の風晴後曇雨模様

四人の女

津手生

（十一）

お零

これを見て私は『お兆さお天道様があの雲の所へ行つたら仕事をしまふよ』と話しかけると、お兆は頭をあげて雲を眺め、雲から二間位離れた太陽に目をやつてから珍らしく微かに頷いた。暫くしてから私は又西の空を見ると、雲は風に追はれて日の沒する位置より遙か北に飛んで行つてゐる。之に氣附くと私は大聲で『お兆さ大變だ、雲が逃げてしまつた、どう仕樣か』と如何にも困惑した情をすると、お兆は私を目た目を空にやり、再び瞳を私に向けてニヤッと笑つた。この事があつてから漸くお兆は時折簡單な言葉で私に應答するやうになつた。

廿日程經つた或日、私が晝休みに緣側で新聞を讀んでゐるとお兆は側へ來て私に一厘五毛の文久錢を差出し『平さ之をあげるんね』と云つて差出した。私は吃驚した。そして如何にも嬉しさうに、お禮の言葉を繰り返した。當時私は古錢を集めてゐたが、夫をどうして知つたか彼女は單に厘錢や文久錢を愛好してゐると思ひ違へてどこかで拾つた錢を私にくれたのであつた。やがて休暇も終りに近づいた頃、雇男の一人は私を揄つて『平さ、お兆さはお前樣に御座つてるらしいんね』と囁いた。御座ると云ふ言葉はこゝでは戀慕の意味に使はれたのだ。私は自分の努力が些少ながら酬られた事に滿足を覺えて上京した。

學校へ通ひ出すとおテフの事を氣に留める事は稀だつたが冬休みに歸省すれば、おテフはどうしてゐるだらうと興味をもつて想像し出した。けれど家へ歸つてから進んでおテフの事を尋ねるのも氣がひけ、家人もそれに觸れた話をしないので物足らぬ思ひでゐたが、翌日叔父の家を訪ひ、從弟と二人きりになると、眞先きにおテフの近況を尋ねた。すると從弟は『とても面白い所を見せるぞ』と云つて膝を乘り出した。叔父の家の南隣りのひやうたん屋の納屋におテフが村一の不良勘太郎と大聲で喚き合つてゐるのを自宅の納屋へ薪を取り出しに行つた從弟が偶然垣根越しに見たら、おテフは自分のお腹の始末を談判し勘太郎は終にしがみつくおテフを足蹴にして逃げて行つたと云ふ事だ、そしておテフは私の家から暇を貰ふとひやうたん屋の納屋の隅を借り、日傭取して自活してゐたのだと從弟は附け加へた。私は急に暗い氣持になり、夫れ以上彼女に就て聞く事も語ることも厭になつた、情が仇と云ふ事が有る、自分のおテフさに對する施した附燒刃の溫情が彼女の愛の芽を育み、彼女をして一層險しい人生行路を歩ませる因をなしたのではないかと、氣が咎めて來たからである

（完）

袋をきて こんで 四度目だ 雪おろし

わが家の 雪は 軒につき

氷柱 ながく 土にとどく

火鉢の 煤が おづつべな 母さは 爐ばたで 言いなさる

寄田子勝角翁

詩壇

珠雲 小野務平

官游多歲偉勳存
愛護後生風化敦
看取德聲隨處遍
郷人接踵叩高門

4月15日

△住友忠隈鑛業所（福岡縣）で入車坑底へ驀進八十餘名死傷△輝く日本大博覽會の開會式擧行（昭和一二）一△ヘレン・ケラー女史來朝（同一二）

けふの日

○

田圃には田圃の匂ひともかくもお花は十八色白娘　花岡諒二

雪おろし

雪べら 長い　武田明次郎

悲戀 髑髏組（どくろぐみ）（164）

林 李兵衛 作　金子 士郎 畫

悲戀の地獄道（二）

『劍とる術も碌に知らない夜盗の群。その首領が、卑怯呼ばりは片腹痛いわ。今までは身を捨てゝ汝等の味方になつてゐたがけふこそは此の島宗が性善へ還るその首途に、汝等の素ッ首刎ねて、極惡非道の呼吸の音を止めてくれるは』

『默れッ！救はれた恩儀を忘れた人非人め、其處動くな』

躍氣の權十郎を尻目にかけ長刀の柄頭を、トン／＼と輕く叩いて、小氣味よく吐き出す刑部の應酬、その言葉の終らぬうちに、

『それッ！』

權十郎が、髑髏組の一味七八名へ下す命令。

同時に、刑部の單身は、彼等の白刃に取り圍まれた。

『うむ、夜盗に以合はぬ殊勝な心掛け、だが拵らぬ腰か、心許なし、又其處な勘コロ智館には、石藥師以來鎰になり日向になつて限なく、よくも今日まで禍はひし居つた、引導を渡す前に刑部の禮だ、冥土の土産に持つて行け』

劍の垣に圍まれながら、別段に氣構へる樣子もなく、心の奧に鬱積された怨の數々を、幾なくズバ／＼と云て、刑部が冷やかに、絶えて久しく見せなかつた持前の含み笑ひ。笑窪がくつきり浮んでゐる。

恩は恩。いや、恩でないかも知れぬ、生命を助けられたもの――と思つてゐたのは、要するに拙者の馬鹿正眞、あれは汝等の描いた巧妙な奸策。石藥師、延命院のいかさま仇討を思ひ出すと、それもたくみの罠だらう。それも先刻承知の拙者なのだ。ふゝん、伊達には持たない此の彥四郎貞宗今迄は、眞意に反いて、善良な人々を殺して來たが、使ひ納めに、今こそ加へる刑部の天誅。髑髏組の一味は一人も殘らす鏖殺しだ』

盡してゐるその沈着さは戰はずして既に七分の勝目がある。

何時まで經つても。抜き合せやうとしない刑部の態度に、嵩かちず侮りを抱いた一人の三ン下が柄にもない附燒刃の鈍刀を振つた時

『猪口才な三ン下めッ』

云ひもあへず、輕く身を交した刑部が、振り返り樣、いつ拔いていつ斬つたのやら、目にも止まらぬ稀代な早業。拔打ちの妙味。血煙と共に虛空を掴んでのけ反つた。

續いて、橫に拂ふ劍尖が、松右門の橫胴を淺くかすめただけで、意氣地なくも尾尻を卷いてあげる悲鳴。

殘つたのは、首領の權十郎と、留五郎、それに、齒の根も合はない勘コロ智館。

權十郎の焦燥は大方でない

三度 彥四郎貞宗が躍つたと、逃げ腰の留五郎の右腕が、肩のつけ根からばつさり、悲脇差諸共に宙天高く舞ひ上つた。

『わッ！』

同時にあがる苦悶の絶叫。

その時、どうせ駄目だと觀念したのが勘太であろ。刑部の隙を狙つて背後から、屁ッ放り腰に斬りつけたが蹴轉と交す身體の方が早かつた。自らの刀の重味に引摺られて、前へツンのめる勘太を、鋭い氣合と共に見事な後ろ袈裟だ。

此の鮮かな太刀捌きを、如實に見せつけられた權十郎は、内心妙からず氣後れがする。だが彼とても武士の果てだ。刑部の兵宇構へにどんな隙があつたのか

『ねいッ！』と一文字に薙ぐ橫胴だ。

おつとつと、その氣合では人はおろか犬も斬れぬは。眞の武士が劍とる術を、冥土の土産に持參すゆか』

次回讀物豫告 隱密小天狗

中川雨之助氏 作
近藤 鐵氏 畫

目下本紙に連載中の髑髏組は、讀者の喝采裡に愈よ近日中に完結を告げることになりました。その次には更に一層讀者の歡迎を受ける新讀物をと、いくか詮ら衡を重ねた結果、左記の一大雄篇を選定して讀者の清鑑に供することに決しました。作者中川雨之助氏は人も知る新聞小說專門の大家で、多年鍊達の筆に籠る獨特の魅力は、到底他の作家の及ぶ處でないと信じます。殊に本篇は氏が最も油の乘り切つた最近の大力作であり、挿繪は斯界の新進近藤鐵氏の麗筆必ずや讀者諸君の大好評を博く　如き　のあ・じわらことを疑ひません　どうぞ御愛讀下さい。

作者の言葉

慶安太平記の立役者としては、何といつても智慧伊豆守松平信綱が、その第一人者に推されてゐる。

しかし、一代の叛逆兒由比正雪を向ふに廻して、伊豆守をして、あれだけ鮮かな手腕を揮はせたのは伊豆守の背後に在つて活躍した隱忍の手柄である。

後世の人氣が、兎角伊豆守にばかり集中されて居て、隱密の功績も拍手と送るもの丶無いのは氣の毒。

一將功成て萬骨枯るとはこれだ。

この一篇、敢て埋れ木となつてゐる隱密への筆供養である。

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市内四丁目
スズキタクシー
電二一七番

病室増築、手術室完備
產科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町 『電話三六九番』

六丁目
木村外科醫院

酒とマヅイ
おでんの榮ちやん
平市四町花ノ屋
電話三三番

廣告

斷然一賣行よし
信用と品質と共に備つて
平市鎌田町
電話五一番
低温殺菌
岡田牛乳

平市二丁目
あまと自動車商會
電話六四〇番

耳鼻科 咽喉科 專門
（入院隨意 病室完備）
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番

吸入用酸素 純度99%
モノサシ マス ハカリ
度量衡
計量器 體溫器 寒暖計
關内藥局
電話四〇番

平市田町
高久病院（電話五三一番）
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
（看護婦至急募集）

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し『內臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科』の診療に從事せしむ
平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 小兒科　院長 鈴木定藏　部長 佐藤幾要司
一般外科 內臟外科 皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科　部長 鈴木定藏　技師 吉川元雄
藥劑科　部長 吉本孝平
診療時間……毎日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
平市田町（元合津醫院跡）
井坂醫院
電話五五九番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
醸造元
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

日本石油株式會社特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社 關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前（電 大津 一四七番）
福島縣四倉驛前（電 平潟 五四番）
福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二番四）

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
一度お試しを乞ふ
勉強振りを、ぜひ一度見せる
建築材・銘木・ベニヤ板・秋田杉・四分板・雜木・建具材・便利棚
福島縣平市
電話平四六〇番

法外な値上ならぬ──
地方商人を嚴重監視
縣が調整委員會急設

最大限の買ひ漁り、賣り惜しみ等時局を奇貨とする奔放な物價釣り上げの風潮は先頃來地方商人間にも漸く瀰漫の兆あるので、之が適當な抑制對策に就き平商工會に對する地方としての希望は本紙既報の如く、之に對する關係者の關心が果して如何なるものかは不明であるが、縣當局では最近深く茲に鑑みる處あり矢々考慮中の折柄十三日全國經濟部長會議か

大衆惠まる

ら坂井經濟部長の歸廳早々、商工省案に基き時局下に於ける物價騰貴に關し大規模な物價調整委員會を急設する事になつたが同會機能の發動に關しては相當鞏固な方針を採り委員は縣首腦部縣下各關係並に消費者代表五十名乃至六十名より組織し一般商人を嚴重監視し時局を無視して法外な暴利をむさぼるものに對しては委員會の審議にかけた上これを公表して社會的制裁を加へ惡質のものに對しては斷乎罪則を加へ適用統制物價調整に完璧を期するはずである

十時から平團体事務所に開き双葉郡の一部も出席左記諸件を附議
(支部提出)産業組合監査聯合會(信用組合聯合會提出)負債整理組合資金取扱一般業務

勤續吏員を表彰
自治記念式と郡町村長會

來る十八日の自治制發布五十年記念式當日には郡下町村長會でも二十五年以上勤續吏員の表彰が行はれるもの如く、郡下では書記時代より前後三十五年勤續の鈴木豊間村長をはじめ、平窪村當時之亦前記資格を得た平市役所鄕野主事、小泉書記等も當然その選に入るものと觀られてゐる

國庫と縣金庫事務取扱
縣社祭休業に例外

七十七、貯蓄、常陽、農工各銀行支店は來る十八日の縣社祭典當日例年通り休業するが國庫と縣金庫事務は平日通り取扱ふと

働く身の樂しさ
小戰士既に二百名
平紹介所に禮狀山積

平職業紹介所では今年小學校を卒へた求職兒のため各所と緊密な連絡を取る一方上京希望兒に對しては神長倉書記が出張賣込みを行つた結果、既に同所の斡旋によつて職業戰線への輝かしい第一歩を踏み出したものはその數二百名を突破これらの少年少女から『職業』の樂しさを書き綴つた禮狀が毎日のやうに寄せられてゐるので同所でも至極滿足、今後とも將來を誤らぬやういろ〳〵側面的の職業補導を行ふ筈である

尚二十餘名の未決定兒は折角その希望職業にも体格其他でありつけぬ氣の毒なものが多く、同所では更に希望變へをさせ、來月末迄には全部片づけると最後の意氣込みを示して居る

産組協議會

石城産業組合協議會は二十日午前

陣中を聽く
(130)

派手でない任務も
引き受け手が必要
池內鐵次郎君(信通)

──心を籠めて御入れ下された品々及び結構なる御激勵の御手紙を拜して只管御厚情の程を深謝するに言葉も知らぬ位であります。只衷心より低頭し厚く〳〵幾度も御禮を申上げる次第であります、今回の支那事變も既に八ケ月を經過し、尚は長期作戰の止む無き情勢にあり、今後幾星霜を續くものとも測り難く、就ては銃後に在りて慰問袋、千人針、萬人力、千社詣りと人力にて爲し得る事全部を明けるも暮れても吾々出動將兵の爲に御努力下さいます、皆樣こそ眞に御苦勞千萬にて紙上にて其の一端を窺ふさへ涙を催す位であります、隨つて吾人としても此の誠ある御高恩は一日として忘却した事なくこの九牛の一毛たりとも酬いんものと客年〇月中旬出征以來身は鴻毛よりも輕く双肩に掛れる重任の大なるを感銘し只殉國の二字のみを以て終始し、最大の努力を拂ひつつありますが如何にせん、我が部隊は華々しい戰鬪をする部隊でない爲に、未だ紙上に一度も發表せられぬ事を眞に恥入る次第であります。之も萬已むを得ぬ事にて誰かが此の通信連絡網の確保を擔任すべき電信隊に服せざるべからず、何卒御諒承を乞ふ。

過去八ケ月間に於て任務の關係上北支は全土に足跡を印し現在は山東省の〇〇市に待機して居りますが、之も名のみにて連日連夜重要なる通信に任じ、一日として憩ふ間はありません、而し皆樣の御苦勞に比すればいと易き事にして只任務大事と精勵しつつあります。別紙(一面所報)北支の概略を申上げます。御判讀下さい。

(◇)　(◇)　(◇)

二月二十八日

目ま苦しい發達變遷
自治制發布五十年記念式を前に
ありし日の平市を顧る

八重葎繁りに茂つて、蒼鼠廢屯に隠る士族町の裏畑あたり、今は立派に舗裝されて夙夜校の如く自動車が伏駛する。明治二十三年僅かに三千三百二十八圓に過ぎなかつた町豫算が今日では實に六十三萬圓近に上つてゐるでは無いか。現在でこそ新市或平窪を併せて人口三萬二千を擁する天下に押しも押されもせぬ新興都市ではあるが、戸口關係で一番古い文献によると自治制布かれて十年を經た明治三十四年が千九百一戸九千六十二人。町から市へ─の既往半世紀に亘つて大平に於けるアウトラインの伸張ありこそ、眞に雲蒸龍變の急激且つ旺盛なものがあつた、

自治制發布されて茲に五十年。全國町村長會では來る十八日午前十一時から同會々館で自治制發布五十周年記念祝賀會を擧行、聖旨奉体決議を行つた後、五十周年記念に內務大臣より表彰せられたる各町村長及び物故正副會長等百四十名餘に對し表彰式を行ふと云ふが現在の平市から其の昔の姿を顧みたら、目まぐるしい躍進發展に微笑ましさを感ずる一面いみじくも懷かしい追憶の數々があらう。次は初代以來現靑沼市長迄の歴代町長で伏見氏の外は何れも今は此の世の人ではない

(明治二二、八就任)石川樵介(二五、一)漆原昌德(二五、五)龜山惟威(二六、三)荒至直(三一、九)村上淸通(三五、九)川島至善(三七、一一)殿木甚治(三九、八)伊坂員正(大正一四、二)伏見彥衛(昭和七、一〇)靑沼鎗太郎(一二、六、一市制實施)靑沼鎗太郎

自治制記念
表彰式と市報發行

平市では來る十七日の自治制發布五十周年記念日には十二年度優良納税組合表彰式を擧行する外懸案「平市報」を發刊する

噫。故所長
元入山從業員　橋本顯治君

自治會報新聞紙上にて(二月九日)所長殿御逝去を知りました、國家の爲誠に悼ましき襲りと存じ限んで冥福をお祈りして居ります。御地も此の手紙を御覽になる頃は櫻も滿開となるでせう、此處河北の地も今が櫻の眞盛り菜の花も咲きました、遠く銃聲を聞きつつこれ等を眺めて居ると矢張り戰場にも春は訪れたナーと感心します、目下は此の〇〇驛といふ所で警備してゐます、時々殘敵掃蕩に出掛ける位のものです

投檜
投書歡迎

一つの悲劇。

◆二、三日前　尋常二年生の長男がいつもに似合はずショゲて歸つて來ての話しに、この日お辨當の時に新學期から同じ机に揃つた同級生に『おめえは毎日麥ご飯だからノリを掛けてくるんだつペ』と云はれたとのこと

◆なんでもそ、の子の家庭は裕福で學用品などにも常に見劣りを感じてゐるらしい、こちらは麥めしを隱す爲にノリを掛てやるのではないが、そこは子供心スツカリ肩身が狹くなつたのだらう

◆感じ易い童心を出來得るだけ素直に育て度いとは思つてゐるが、一寸氣づかないところにかうした悲劇?が生れたわけで親心として胸痛い感じがした。(腰辨生)

◇◈◇◈　◇◈◇◈

綠の江の島、嵐山へ
平商生の旅行決まる

平商業學校の修學旅行は既報の如く來月二日から五泊六日の豫定で行はれる、引率者は武川、新田兩敎諭、その日割及見學場所は左の如く、平着は七日午後七時三十七分(カッコ內宿泊地)

五月二日　東京、鎌倉八幡宮、大佛、圓覺寺、江の島(江の島)

三日　名古屋、商業街、熱田神宮參拜(二見)

四日　二見、夫婦岩、伊勢神宮參拜、橿原神宮、神武天皇御陵參拜、猿澤池、春日神社、奈良公園三笠山、東大寺、大佛(奈良)

五日　京都、法隆寺、大阪城、造幣局、商業街、取引所、電氣科學館、桃山御陵參拜(京三條)

六日　京都、京都御所、東本願寺、三十三間堂、平安神宮、北野神社、金閣寺、淸水寺、知恩院、嵐山、石山寺、三井寺(京都發車中)

七日　東京、明治神宮、靖國神社參拜、宮城遙拜朝日新聞社、商店街

線路上の母性愛
母の死、附近民泣かさる

內鄕村高坂字御殿磐城炭礦住吉坑採炭夫佐藤喜代次さん妻ソデ(三七)さんは十三日午後三時半頃倅の喜和(三)ちやんを手がけでおんぶして同字地內の磐炭專用引込線踏切り附近を通らんとした刹那連結中の車輛の間に挾まれアッ！といふ間にソデさんは骨盤を骨折即死、喜和ちやんは瞬間ソデさんの機轉によつて投げ出され危いところで命拾ひをした死を前にしての母性愛の發露に附近民も泣かされたといふ

栃木縣人會

地方在住栃木縣人會では明後十六日午後四時より松ヶ岡公園尼子亭に於て春季例會を催すが會費二圓、出席希望者は會長市內紺屋町藤沼平次郎氏宛申し込まれ度いと

營收税輕減

臨時租税措置法により六千圓未滿の個人營業純益が平常利益(昭和十一年以前三年の平均利益)に對して二割五分以上の減少の場合は納付する營業收益税が輕減されることになつた、該當者は急ぎ申請書を提出されたいと

賣上百萬圓突破
昨年度の煙草消費

郡山地方專賣局平出張所昨十二年度中の煙草賣上高は百四萬八千六百九十一圓で前年度の八十八萬九千二百四十一圓に比し實に十五萬九千圓の大激增振り、去月中の賣上げは八萬八千百十五圓(昨年對比一萬八千八十圓增)で最高は依然大衆向きバットの四萬七千九百七十七圓

常銀代表打合會

常陽銀行支店出張所代表者の事務打合會を十六日午前十時から平支店樓上に開き各種打合せの上花の松ヶ岡で歡櫻會

實務青年の修養機關
青年校入學者よ來れ

勤勞實務青年の修養機關である青年學校は既報の如く來年度から義務制となるので、平市では今年度を促進期として入學者を募集してある、希望者は願書、履歴書を第一校內青年學校に申込まれたいと、入學者には授業料を徴收せず汽車賃は二割引、被服の一部も貸與する、教科のうち學科は月、水、金、土曜日夜間二時間宛である

△科別普通科(尋卒)本科普通科(高小卒)研究科(本科卒)專修科△教科修身、公民科、職業科(商業、簿記、珠算)普通學科(國語、數學、歷史地理、理科)△教練(晝間部毎週土曜午前中四時間、夜間部毎週火、木曜日夜間二時間宛)△第一學期五月—七月中旬、第二學期九月中旬—十二月上旬、第三學期一月中旬—三月中旬

市役所では目下滿十二才以上十九才迄の該當者(男子)を調査してゐるが約五百名に上る見込みである

板間稼ぎ

市內仲間町無職久保田惣藏(五二)は去る十日夜南町竹の湯方で入浴中の自動車運轉手平松明男君の現金七圓餘入り蟇口を竊取した外前後數回の板間稼ぎをして平署へ

松ヶ岡から

〇 全山の花は丁度いまが見頃に候、五色燈に映ゆるゆかしい夜景は例年のことながら散策の人の足を止め、旅する人も思はず車窓から乘り出す騷ぎ。夜間の演藝は愈よ昨晩から始められ、豪華な『春の繪卷』に魅せられた見物人で廣場は身動きもよれぬ雜踏を呈し候、こゝかしこから聞ゆる絃歌のさんざめきもいつか軍國調に──爭はれぬ戰捷の櫻景氣。裾ふり亂してわめく氣のふれた女などまで飛出すなど春は愈よ酣に御座候

靑沼市長寄附

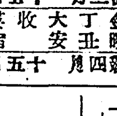
盜難に遭つた靑沼平市長は犯人も難なく捕はれ現金も五十圓のうち三十圓戻つたのでソツクリこれを司法保護會に寄附

草野の村葬

草野村では上海方面の戰鬪で戰死した同村出身上等兵坂本三郎氏の村葬を來る二十日午後一時から小學校講堂で執行する

坂本上等兵は兩角部隊に屬し難攻馬家宅の戰鬪に

十五日
(小名濱測候所發表)
滿潮　前四、一〇　後五、三〇
干潮　前一一、一五　後一一、五五



舊三月十五日　金曜　丁丑　大安　收　婁宿　新四月十五日

▲一白　內外の親和なかゝざる様注意金運に惠まる▲二黑　たきなはいして熱心なれば身分相應の利あり▲三碧　營業を出精せらるゝが安全計畫は難訣あり▲四綠　吉凶半ばするが故進むより退くが安全なり▲五黃　無理の行動なつゝしめば平穩なる氣運を保つ▲六白　急功を望まざれば希望は通達す開店起業吉▲七赤　くわさくする所大に過ちよくを忌すべし援助も多し▲八白　經營は意外の不覺を招くべし守靜するが吉▲九紫　得る所多けれども亦失ふ所大なり去就注意

山野邊東次郎創製
[illegible]胃腸藥
効果頗る優秀
發賣元　山野邊藥局　平・五丁目

◎社員招聘
一、外務員若干名
(イ)年令二十五歳以上五十才以下ノ男子ニシテ身體強健、身元確實、努力ノ人
(ロ)希望者ハ履歴書持參來社ノコト
(ハ)給料、手當其ノ他面談
右業務擴張ノ爲メ優遇招聘ス
營業科目　公債、債券、現物賣買、金融
平市　鍛治町十八番地
日本商事株式會社平支部
電話　七三六番

小店員募集
年令十四五才ノ
(委細御面談下さい)
精幸堂　高橋時計店
茨城縣助川町

四月十八日縣社子鍬倉神社御祭禮ニ付臨時休業仕リ候
平銀行組合

萬年筆と
シャープペンシルは今すぐに
萬年筆の十四金ペンは金の統制で十二金ペンに低下されました、その上萬年筆とシャープペンシルは四月一日から課税される事になるでせう
この際！　この時！　當店はパイロット萬年筆の十四金ペン付手持品全部を皆樣に解放して十四金ペンの書き味をおすゝめ致します
(友)マルトモ柴田書店
平市四丁目
電話　一二四番　二三四番

外務員募集
奮鬪ノ士ヲ望ム
成功、收入の早道
千代田生命保險相互會社
平出張所二丁目(二十五番地)
鈴木勇